

4

No. ~~口~~

No.

48  
4

挿  
給  
を  
描  
い  
て

佐  
々  
々  
部

組見女'利

口 鞍馬天狗を 描かして頂うから、この

周にか五年も経つてゐるや。

少年の次から、印象深く心にも、食込んでお

て、讀んたりたりして、楽しんでさん居れ

ば良い立場にあつた者が、一種偶縁化されて

たる、この天狗さんをも、この中から廻る今世を

<> 描かして頂く程なうものか、考へると金

く、不思議に思ひます。

天狗さん居、~~描~~よ、描きばい、する前に、一言

ス佛さまに、この様な筆構へで描き出しても

のか、は相違しと考へました。是等は、

偶縁化されてゐる型を、踏襲する事は必要な

い、良い程にお描きなさい。新しい天狗を、

りなさいと云ふる心、その場は柔柔に思ひ

し、か、實際に描きばい、や、忍ぶと、大善な

る心、新しい創造がどんなに困難な事が、思

ひ知らされました。

口 口 源流の傍の中に、筆鞍馬天狗に因

する限り、驚ろく程精しい方かありて、折々